

子どもをめぐる保護者の規範意識の特性と課題

馬 居 政 幸  
松 永 由 弥 子

## 子どもをめぐる保護者の規範意識の特性と課題

馬居 政幸  
(静岡大学)  
松永 由弥子  
(静岡産業大学)

### 【要旨】

近年問題視されることが多い青少年の規範意識の現状とその課題を把握するために、2000年12月に静岡県下の青少年および保護者に対して行われた規範意識に関する調査の中で、保護者調査の結果に焦点をあて、保護者自身の規範意識の特性と子どもの規範意識形成の観点からみた課題について検討した。保護者の規範意識は、等質性分析およびクラスタ分析の結果から「規範軽視—規範重視」「他者优先—自己優先」の2軸を基準に7クラスタ(グループ)に類型化された。今回の調査対象となった保護者の多くは、基準の中央あるいは規範重視かつ自己優先のクラスタに属し、親子関係も良好であったが、青少年調査の分析結果もあわせて検討した場合、保護者自身の規範重視の考え方よりも親子関係の緊密さが子どもの規範意識形成上重要であることが明らかとなった。

### 1. はじめに

近年、従来の常識とかけ離れた子どもたちの非行、犯罪の多発という社会現象に対して、青少年の規範意識の低下が問題視されることが多い。この問題に関連して、われわれは、静岡県青少年問題協議会ならびに静岡県教育委員会(青少年課)の依頼により、青少年の規範意識の実態把握ならびに施策化への課題を明らかにするために、2000年12月、静岡県下の小学生・中学生・高校生を対象に実施した規範意識に関するアンケート調査<sup>1)</sup>にかかわった。その際、規範意識の低下の現状や課題を明らかにするために、青少年自身の規範意識の特性のみでなく、それらが培われる過程での問題点やその背後にある社会的基盤(社会環境や人間関係など)とのかかわりを重視し、彼ら彼女らが所属する集団自体の規範意識の特性を把握することに努めた。

具体的には、現代青少年の規範形成に深くかかわる友人との関係に加えて、保護者との関係に焦点をあて、特に、規範意識の低下とかかわって最も問題視されることが多い中学生の保護者と、その前段階にある幼稚園・保育園児の保護者に対して同時期にアンケート調査を実施した。

以上のような調査の中から、本稿では特に保護者調査の結果に焦点をあて、保護者自身の規範意識の特性と子どもの規範意識形成の観点からみた課題を明らかにしたいと思う。

### 2. 中高生の規範意識の構造と保護者との関係

中高生対象の調査では、規範意識の現状を把握するために、日常生活の多様な場面における判断基準を解明するための質問を設けた。分析の結果、中高生の規範意識は、「既存規

「規範同調か既存規範逸脱か」「自己志向か関係志向か」の2つの軸を基に9つのタイプに分かれることが明らかとなった<sup>2)</sup>。

この9つのタイプについて父親・母親との関係からみたそれぞれの特性を調べてみると、既存規範に同調傾向のある中高生は親との日常的な関わり合いが多いこと、既存規範に同調あるいは自己志向の強い傾向の中高生は両親を肯定的に受け入れていること、既存規範に同調あるいは関係志向の強い中高生は父親と本気でけんかをしたり叱られたりするというように父親との関わり合いが強いこと、既存規範に逸脱の傾向にあり親友もあまりいない中高生は親との日常的な関わり合いが少なく親が理解してくれているかどうかのわからない上に気はつかっていることなどが明らかになった。これらの分析結果から、青少年の規範意識およびその形成過程において、保護者、特に父親の与える影響の少なくないことが浮き彫りとなった。

### 3. 保護者の規範意識の分析方法

#### (1) 分析の観点と方法

それでは、その保護者自身は、どのような規範意識を持って日々を過ごしているのだろうか。また、青少年の規範意識形成の観点からみれば、その保護者自身の規範意識にはどのような問題があるのだろうか。

本調査では、保護者調査において、日常誰もが会おうと思われる場面を19個設定し、それぞれの場面で二者択一の選択肢を用意して回答を求め、それらの回答を総合的に分析することにより保護者自身の規範意識の特性を明らかにした。設問の場面及び選択肢については、中学生調査の結果と比較できるように、ほぼ同じ物を用意した。これらの場面設定の際には、中学校学習指導要領「道徳」の内容を参考にした。

分析の方法としては、等質性分析を用い、各設問の選択肢の数量化と各設問の回答に基づくサンプルごとの数量化という2つの数量化を実施した。その上で、似たような回答傾向を示す調査対象者をグループ化するため、クラスタ分析を行った。

#### (2) 等質性分析による2つの軸の析出

等質性分析の結果、第1表、第2表に示した2つの軸が保護者を類型化する上での基準になる軸として析出された。これは、前述の19の設問それぞれへの二者択一の回答、合計38項目が相互にどのような関係にあるかを数値によって示したものである。

第1表をみると、表上の得点の高い項目は「道で近所の人を見かけた時、挨拶しない」「間違い電話をかけてしまった時、黙って切る」「電車で疲れて席に座っているところにお年寄りが乗ってきた時、席を譲らない」などであり、一方で表下の得点の低い項目は「電車の床に若者が座り込んでいる時、それを注意する」「友人が話して夢中で地域の清掃活動をしないう時、注意する」「PTAの講演会で話を聞く時、メモをとる」などであった。そこでこのI軸は「規範軽視—規範重視」の軸と名づけた。なお、このI軸の寄与率は43.0%であった。

次に、第2表をみると、表上の得点の高い項目は「真夜中に友人から会いたいと電話があった時、夜でも会う」「翌日の準備はその日にする」「捨て犬を見つけた時、世話をする」などであり、表下の得点の低い項目は「道で近所の人を見かけた時、挨拶しない」「友人

第1表 各質問の選択肢に与えられたI軸得点の順位

規範軽視

	質問	選択	I軸
(1)	17. ②道で近所の人を見かけた時	挨拶しない	2.01
(2)	15. ①間違い電話をかけてしまった時	黙って切る	1.84
(3)	18. ②電車で疲れて席に座っているところにお年寄りが乗ってきた時	席譲らない	0.99
(4)	3. ①友人がいじめにあっていることを知った時	味方にならない	0.94
(5)	12. ①買ったばかりの腕時計をなくしてしまった時	あきらめて買う	0.84
(6)	11. ①子どもの成績表に保護者のハンコを忘れた時	子どもが悪い	0.82
(7)	2. ②仲のよい友人とけんかをした時	謝らせる	0.81
(8)	1. ②翌日の準備	その日に準備	0.52
(9)	9. ②PTAの講演会で話を聞く時	聞いているだけ	0.48
(10)	10. ②担任の先生に子どもの勉強の話聞く時	普段の話し方	0.46
(11)	4. ①友人に自分の短所を指摘された時	言われなくても	0.40
(12)	6. ②友人が話して夢中で地域の清掃活動をしないう時	注意しない	0.39
(13)	8. ①電車の中で携帯電話がかかってきた時	電話に出る	0.37
(14)	5. ②講演中に隣の人が話しかけてきた時	一緒に話す	0.27
(15)	14. ①男はたくましく女はやさしいという考え方	男と女は違う	0.22
(16)	7. ②真夜中に友人から会いたいと電話があった時	夜でも会う	0.15
(17)	13. ②捨て犬を見つけた時	捨て犬は放置	0.13
(18)	19. ②電車の床に若者が座り込んでいる時	床座り無視	0.09
(19)	16. ②風邪をひいて寝込んでいる時の夕飯	コンビニか出前	0.02
(20)	16. ①風邪をひいて寝込んでいる時の夕飯	作ってもらう	-0.01
(21)	15. ②間違い電話をかけてしまった時	謝って切る	-0.05
(22)	7. ①真夜中に友人から会いたいと電話があった時	夜は断る	-0.06
(23)	11. ①子どもの成績表に保護者のハンコを忘れた時	自分が悪い	-0.06
(24)	17. ②道で近所の人を見かけた時	挨拶する	-0.06
(25)	3. ②友人がいじめにあっていることを知った時	味方になる	-0.11
(26)	10. ①担任の先生に子どもの勉強の話聞く時	敬語で話す	-0.11
(27)	14. ①男はたくましく女はやさしいという考え方	性で決めない	-0.14
(28)	1. ①翌日の準備	前の日に準備	-0.16
(29)	12. ②買ったばかりの腕時計をなくしてしまった時	発見まで探す	-0.19
(30)	2. ①仲のよい友人とけんかをした時	自分から謝る	-0.21
(31)	18. ①電車で疲れて席に座っているところにお年寄りが乗ってきた時	席譲る	-0.26
(32)	8. ②電車の中で携帯電話がかかってきた時	電話に出ない	-0.27
(33)	4. ②友人に自分の短所を指摘された時	直そうと思う	-0.39
(34)	5. ①講演中に隣の人が話しかけてきた時	講演中と注意	-0.39
(35)	13. ①捨て犬を見つけた時	捨て犬世話	-0.43
(36)	9. ①PTAの講演会で話を聞く時	メモをとる	-0.48
(37)	6. ①友人が話して夢中で地域の清掃活動をしないう時	注意する	-0.56
(38)	19. ①電車の床に若者が座り込んでいる時	床座り注意	-0.94

規範重視

がいじめにあっていて、味方にならない」「講演中に隣の人が話し掛けてきた時講演中だと注意する」などとなったため、このⅡ軸は「他者優先—自己優先」の軸と名づけた。こちらのⅡ軸の寄与率は26.6%であった。

第2表 各質問の選択肢に与えられたⅡ軸得点の順位

		他者優先	
(1)	7. ②真夜中に友人から会いたいと電話があった時	夜でも会う	0.81
(2)	1. ①翌日の準備	その日に準備	0.77
(3)	13. ①捨て犬を見つけた時	捨て犬世話	0.60
(4)	8. ①電車の中で携帯電話がかかってきた時	電話に出る	0.41
(5)	5. ②講演中に隣の人が話し掛けてきた時	一緒に話す	0.40
(6)	4. ①友人に自分の短所を指摘された時	直そうと思う	0.30
(7)	16. ②風邪をひいて寝込んでいる時の夕飯	コンビニか出前	0.27
(8)	9. ①PTAの講演会で話を聞く時	聞いているだけ	0.12
(9)	6. ②友人が話して夢中で地域の清掃活動をしないう時	注意しない	0.11
(10)	11. ②仲のよい友人とけんかをした時	自分から謝る	0.09
(11)	18. ①電車で疲れて席に座っているところにお年寄りが乗ってきた時	席譲る	0.09
(12)	3. ②友人がいじめにあっていて、味方にならないことを知った時	味方になる	0.08
(13)	14. ②男はたくましく女はやさしいという考え方	性で決めない	0.06
(14)	12. ②買ったばかりの腕時計をなくしてしまった時	発見まで探す	0.05
(15)	11. ①子どもの成績表に保護者のハンコを忘れた時	自分が悪い	0.04
(16)	19. ②電車の床に若者が座り込んでいる時	床座り無視	0.02
(17)	17. ①道で近所の人を見かけた時	挨拶する	0.02
(18)	10. ①担任の先生に子どもの勉強の話を聞く時	敬語で話す	0.01
(19)	15. ②間違い電話をかけてしまった時	謝って切る	0.01
(20)	10. ②担任の先生に子どもの勉強の話を聞く時	管段の話し方	-0.03
(21)	14. ②男はたくましく女はやさしいという考え方	男と女は違う	-0.09
(22)	9. ①PTAの講演会で話を聞く時	メモをとる	-0.12
(23)	6. ①友人が話して夢中で地域の清掃活動をしないう時	注意する	-0.16
(24)	13. ③捨て犬を見つけた時	捨て犬は放置	-0.18
(25)	16. ①風邪をひいて寝込んでいる時の夕飯	作ってもらう	-0.20
(26)	19. ①電車の床に若者が座り込んでいる時	床座り注意	-0.22
(27)	12. ①買ったばかりの腕時計をなくしてしまった時	あきらめて買う	-0.23
(28)	1. ①翌日の準備	前の日に準備	-0.24
(29)	4. ①友人に自分の短所を指摘された時	言われなくても	-0.29
(30)	8. ②電車の中で携帯電話がかかってきた時	電話に出ない	-0.30
(31)	2. ②仲のよい友人とけんかをした時	謝らせる	-0.31
(32)	7. ①真夜中に友人から会いたいと電話があった時	夜は断る	-0.35
(33)	18. ②電車で疲れて席に座っているところにお年寄りが乗ってきた時	席譲らない	-0.37
(34)	15. ①間違い電話をかけてしまった時	黙って切る	-0.49
(35)	11. ①子どもの成績表に保護者のハンコを忘れた時	子どもが悪い	-0.60
(36)	5. ②講演中に隣の人が話し掛けてきた時	講演中と注意	-0.60
(37)	3. ①友人がいじめにあっていて、味方にならないことを知った時	味方にならない	-0.65
(38)	17. ②道で近所の人を見かけた時	挨拶しない	-0.69
		自己優先	

(3) クラスタ分析による7類型化

以上のような等質性分析による軸の析出を行った後、この2軸を用いたクラスタ分析を行い、回答者の類型化を試みた。すでに等質性分析において回答者1,287名の2つの軸に対する数値化、すなわち得点付けはなされているため、この得点を用いてクラスタ分析を進めた。その際、ここではサンプル数が多いため「非階層クラスタ分析」を用いた。この「非階層クラスタ分析」ではあらかじめ分割するクラスタ(グループ)数を指定する必要があり、今回の分析においても3つのクラスタから始めて、4つ、5つと分けてみたが、その結果、7クラスタの分割が回答者である保護者の特性を表すには適切ではないかと判断した。同時に最も人数の少ないクラスタが100人を切ったため、8分割以上の分析は中止した。

クラスタ分析の結果得られた分割図を第1図、各クラスタの人数の全回答者数に対する割合を第2図で示した。第1図は、同じ数字の羅列によって囲まれた内側が、囲む際に用いた数字が示すクラスタとなっている。また、この同じ数字で囲まれた範囲内に、2つの軸に対する得点が点としてプロットされた人が何人いるかを示したのが、各クラスタ内に書いてあります数字である。たとえば、図左上の第4クラスタの場合には、この範囲内にプロットされた人は115人おり、その内訳は「中父」中学生の父親が27人、「中母」中学生の母親が38人、「幼保父」幼稚園・保育所に通う子どもを持つ父親が22人、「幼保母」幼稚園・保育所に通う子どもを持つ母親が28人、その他の保護者がなしであることを示している。さらに、各クラスタ内のアスタリスクのマークが、各クラスタにおける回答者の2つの軸に対する得点の平均値を示している。ただし、各クラスタの合計人数からわかるように、数字で囲まれた範囲が大きいからといって、必ずしもその領域に属する回答者数が多いわけではない。また、各クラスタのアスタリスクの位置からわかるように、各回答者の実際にプロットされる位置はそのクラスタの範囲内にまんべんなく存在しているのではない。

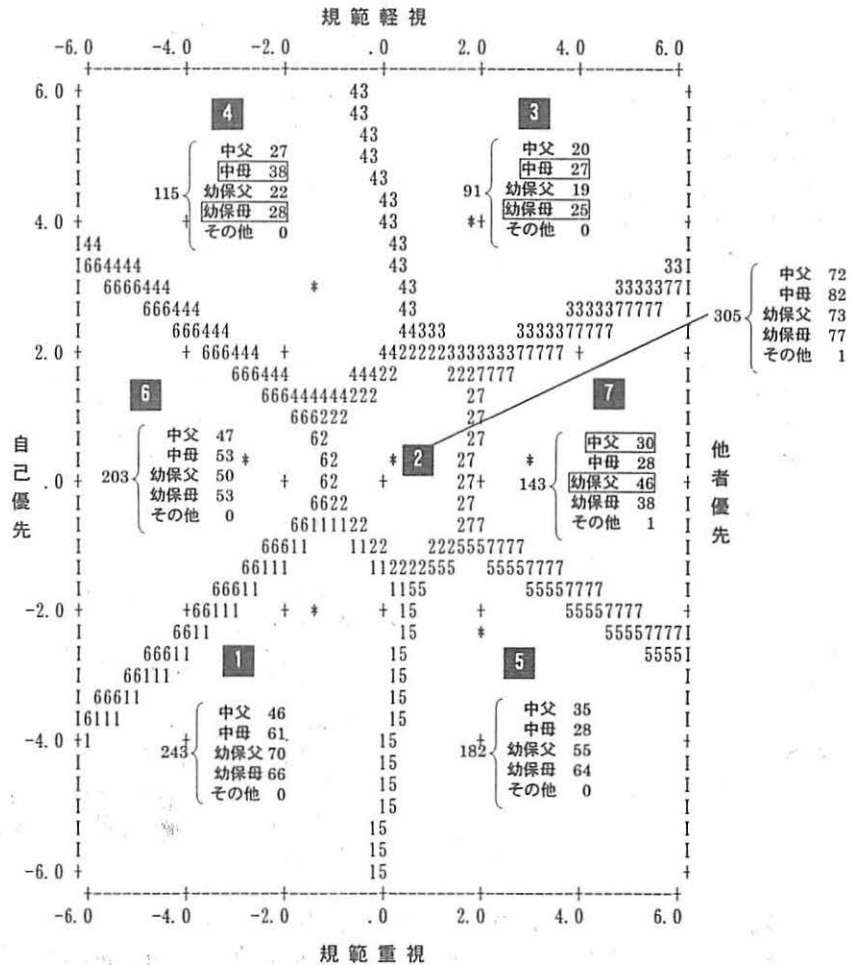
この第1図の各クラスタの人数分布からわかることは、次の3点である。第1点は、中央に位置する第2クラスタには305人が位置し、全体の23.8%と回答者の約4人に1人はここに所属することである。第2点目は、図上方の第4クラスタ、第3クラスタの母親の人数が父親の人数より若干多いこと、第3点目は、図の右中央に位置する第7クラスタにおいてのみ父親の人数が母親の人数より多いことである。

4. クラスタ別にみた保護者の規範意識および子どもとの関係の特性

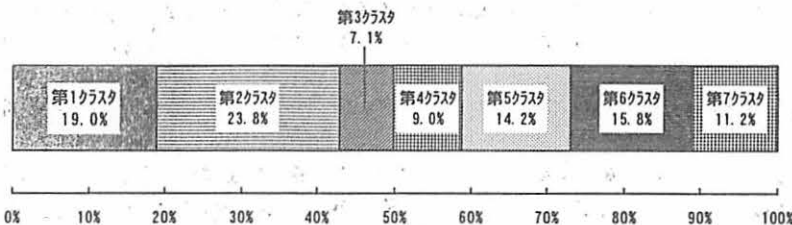
さらに各クラスタの規範意識の特性を明らかにするために、等質性分析に用いた19の設問(調査票での問番号は問6)と7つのクラスタのクロス集計を試みた(第3表)。第3表では表頭の丸のついた数字が各クラスタを示しており、その各番号の下に各問への回答傾向を示した。それぞれの数値の中で、平均値よりも10%以上高いものには◎、5~10%高いものには○、より3~5%高いものには△の印をつけた。また、各クラスタの子どもとの関係についての特性を明らかにするために、子どもとの関係を問うた質問項目(調査票での問番号は問2)とのクロス集計を行った(第4表・第5表・第6表)。表の見方は第3表と同じである。

一般的にはこのような手続きで明らかにしたクラスタの特性に基づき、各クラスタに所属する典型的な人間類型を想定し、ネーミングを施すが、今回の分析では、クラスタ間の

第1図 7クラスタの分割図



第2図 7クラスタの割合



第3表 グループ分けに使用した設問に対する7クラスタごとの解答の割合 (%)

Q 6 人数 (%)	① 244 (19.0)	② 307 (23.9)	③ 92 (7.1)	④ 115 (8.9)	⑤ 183 (14.2)	⑥ 203 (15.8)	⑦ 143 (11.1)	合計 1,287 (100.0)	平均
1-①前日に準備 ②その日に準備	76.0 24.0	78.0 22.0	76.9 23.1	77.4 22.6	△80.2 19.8	77.7 22.3	70.4 ○29.6	76.9 23.1	
2-①自分から謝る ②謝らせる	79.9 20.1	78.0 22.0	75.9 △24.1	△81.3 18.8	75.6 △24.4	79.4 20.6	△81.8 18.2	78.8 21.2	
3-①味方にならない ②味方になる	6.8 △93.2	10.0 90.0	△12.9 87.1	△13.1 86.9	8.6 91.4	10.2 89.8	△14.7 85.3	10.2 89.8	
4-①言われなくても ②直そうと思う	49.0 51.0	50.0 50.0	53.8 46.2	○59.3 40.7	49.4 50.6	42.3 ○57.7	△57.1 42.9	50.4 49.6	
5-①講演中と注意 ②一緒に話す	41.8 58.2	40.5 59.5	38.9 61.1	△42.6 57.4	40.9 59.1	38.0 62.0	36.0 △64.0	40.0 60.0	
6-①注意する ②注意しない	○50.4 49.6	40.8 59.2	31.1 ○68.9	35.1 ○64.9	40.9 59.1	42.5 57.5	33.8 ○66.2	40.9 59.1	
7-①夜は断る ②夜でも会う	70.3 29.7	△73.0 27.0	71.4 28.6	○76.3 23.7	60.5 ○39.5	70.6 29.4	66.0 △34.0	69.8 30.2	
8-①電話に出る ②電話に出ない	40.1 59.9	38.8 △61.2	△46.7 53.3	40.7 59.3	42.0 58.0	40.0 60.0	◎52.5 47.5	41.9 58.1	
9-①メモをとる ②聞いてるだけ	50.4 49.6	50.7 49.3	44.6 ○55.4	50.0 50.0	49.7 50.3	△53.2 46.8	44.4 ○55.6	49.7 50.3	
10-①歌語で話す ②普段の話し方	83.1 16.9	78.9 △21.1	80.2 19.8	83.5 16.5	△86.2 13.8	81.5 18.5	76.1 ○23.9	81.3 18.7	
11-①子どもが悪い ②自分が悪い	5.0 95.0	6.6 93.4	○12.0 88.0	7.9 92.1	4.4 △95.6	7.0 93.0	7.1 92.9	6.6 93.4	
12-①あきらめて買う ②発見まで探す	15.4 △84.6	18.9 81.1	18.9 81.1	15.7 △84.3	△20.8 79.2	20.2 79.8	19.9 80.1	18.5 81.5	
13-①捨て犬世話 ②捨て犬は放置	23.8 76.2	23.0 77.0	13.3 ◎86.7	22.3 77.7	△26.7 73.3	22.7 77.3	△26.2 73.8	23.3 76.7	
14-①男と女は違う ②性で決めない	35.7 △64.3	41.1 58.9	38.0 62.0	○48.7 51.3	32.4 ○67.6	33.2 ○66.8	◎50.0 50.0	39.1 60.9	
15-①黙って切る ②謝って切る	1.7 98.3	1.6 98.4	4.3 95.7	3.5 96.5	3.3 96.7	1.5 98.5	4.2 95.8	2.5 97.5	
16-①作ってもらう ②コンビニか出前	57.5 42.5	57.5 42.5	50.0 ○50.0	◎72.2 27.8	52.8 ○47.2	58.4 41.6	57.4 42.6	57.8 42.2	
17-①挨拶する ②挨拶しない	97.1 2.9	97.0 3.0	95.7 4.3	94.8 △5.2	98.9 1.1	97.5 2.5	97.9 2.1	97.2 2.8	
18-①席譲る ②席譲らない	△83.8 16.3	78.4 21.6	71.1 ○28.9	79.1 20.9	81.3 18.7	78.0 22.0	79.6 20.4	79.4 20.6	
19-①床座り注意 ②床座り無視	10.0 90.0	7.6 92.4	5.4 △94.6	4.3 △95.7	△12.2 87.8	△12.6 87.4	7.0 △93.0	9.0 91.0	

◎: 平均値よりも10%以上高いもの

○: 平均値よりも5%~10%高いもの

△: 平均値よりも3%~5%高いもの

特性に強い差が出ていないこと、またネーミングによってかえってデータが示す様々な課題を切り捨ててしまう恐れのあることを考慮し、あえてネーミングはせずに各クラスタの特性を次に挙げるようにまとめることとした。以下には、2つの軸との関係すなわち図1の分割図との対応も考慮に入れた順番で、第3表から第6表の中で平均値との差があり特徴となった項目を挙げることを中心に各クラスタの特性を示した。

第1図では左上にあたる第4クラスタ(規範軽視・自己優先)の所属者は、自分が風邪の時には誰かにご飯を作ってもらい、友人に短所を指摘されると言われなくてもわかっていると思ひ、夜友人に会いたいといわれても断る。また、清掃活動で友だちが掃除していなくても注意しない。子どもとの関係をみると、子どもから自分の性格や身体の悩みを相談され、子どもと地域のスポーツ活動、父親や母親、父親や母親の仕事について話をし、子どもに手伝いをしてもらったり、一緒に買い物に行ったりしている。これらのことから、規範についてはちょっと軽んじて自分の事を優先して行動をとる傾向にあるが、子どもとはとてもよく関わっている親というイメージが浮かび上がる。なお、このクラスタでは母親の人数が若干多くなっている。

その下の第6クラスタ(規範中立・自己優先)の所属者は、友人に短所を指摘されたときには直そうと思ひ、「男はたくましく、女はやさしい」という考えには性で決めないほうがよいと考えている。子どもとは、担任の先生の話はしますが、地域のスポーツ活動や父親・母親の仕事については話をしない。勉強は教え、一緒に買い物には出かけるが、子どもに気をつかい、本気でけんかをしない。幼稚園・保育所に通う子どもを持つ保護者の場合には、子どもが困ったことや悩みの相談に乗らない。これらのことから、親としてやるべきことはやっているが、子どもとは少しだけ距離をおいて接するようなイメージが浮かぶ。

次に図中央に位置する第2クラスタ(偏りなし)は、所属人数も最も多く、今回の調査対象となった保護者の平均的な像としてとらえられる。したがって各問に対する回答の平均値との比較からは特に目立つ特徴はあまり出てこないが、子どもとの関係では、中学生の保護者は子どもの話に感心せず、幼稚園・保育所に通う子どもを持つ保護者は子どもの身の回りの世話をよくするという特徴が出ていた。

第1図では左下に位置する第1クラスタ(規範重視・自己優先)の所属者は、清掃活動中友達で清掃をしていないと注意をする。子どもとの関係では、子どもは手伝いをしてきて、子どもと本気でけんかをし、子どもの話に感心する。以上から、規範を大切にし、子どもとはどちらかといえば対等に本音で付き合っている様子がうかがえる。

第1図では右下の第5クラスタ(規範重視・他者優先)の所属者の場合には、夜友人に会いたいといわれると会い、「男はたくましく、女はやさしい」という考えには性で決めないほうがよいと考えている。風邪をひいたときの夕食はコンビニで売っているものか出前で済ませている。子どもとの関係をみると、子どもと友だちのこと、将来の職業のこと、異性のこと、父親・母親のことについて話をしません。子どもは手伝ってくれないし、一緒に買い物にも出かせない。これらのことから、規範を軽んずるわけではないが、他人の事を優先してしまいがちになっている一方で、ところが子どもとは関係が疎遠なイメージが浮かぶ。なお、このクラスタは中学生の保護者では父親の人数のほうが多くなっている。

その上の第7クラスタ(規範中立・他者優先)の所属者は、電車の中で携帯電話に出て、男と女は違うと考えている。翌日の準備はその日にして、清掃活動で友だちが掃除してい

なくても注意をしない。講演会は聞いているだけで、子どもの担任の先生とは普通に話し、友人に短所を指摘されると言われなくてもわかっていると思ひている。子どもとは将来の職業のこと、部活動のこと、地域のスポーツ活動のこと、父親・母親のことについては話をし、生や死については話をしない。一緒にテレビはみるが、本気でけんかはしない。これらのことから、他者との関係の中で自分の行動を決める傾向にあり、規範はあまり重視しないほうではあるが、子どもとはいろいろと話をし、それなりの関係を維持しているイメージが浮かび上がる。なお、このクラスタは、唯一父親の人数が母親の人数より多いところである。

最後に第1図右上の第3クラスタ(規範軽視・他者優先)の所属者の場合、捨て犬は放置し、清掃活動で友だちが掃除していなくても注意はしない。講演会は聞いているだけで、子どもの成績表へのハンコの押し忘れは子どもが悪いと思ひ、風邪をひいたときの夕食はコンビニで売っているものか出前で済ませ、電車では席を譲らない。子どもとの関係をみると、子どもと生や死の話や将来の職業の話をせず、休日に一緒に遊ばない一方で、子どもに気はつかいます。社会の出来事については話をするが、悩みの相談はされず、勉強も教えず、子どもの話に感心しない。幼稚園・保育所に通う子どもを持つ保護者の場合には、子どもと一緒に遊ばない。以上のことから、規範を軽視し、子どもともあまり関係を持たない傾向がうかがえる。なお、このクラスタでは母親の人数が若干多くなっている。

#### 5. 子どもの規範意識形成の観点からみた保護者の規範意識の課題

まとめとして、これら7つのクラスタの特性について、子どもの規範意識形成の観点からみた課題を検討してみよう。

全体としては、保護者自身の規範意識は年代差や性差もあまりなく総じて悪くはないということ、また、第2・第1クラスタの人数が多いことから、規範は大切にせずかつ子どもとも良好な関係を有している保護者が圧倒的に多いことがあげられる。

次に、第1図において対照的な位置関係にあり、かつ子どもとの関係も対照的な結果となった図左上の第4クラスタと右下の第5クラスタに注目し、どちらのほうが子どもの規範意識にとって好影響を与えるのかを考えてみた。仮説としては、保護者自身の規範に対する考え方が子どもの規範意識形成に最も影響を与えるのではないかと、したがってこの第4クラスタと第5クラスタでは、第5クラスタに所属する親のほうが子どもの規範意識形成にとっていわゆるいい親ではないかと考えた。しかしながら、前述の中高生調査から明らかとなった青少年の規範意識の構造と保護者との関係の中の「親との関係、特に父親との関係が規範意識形成に影響がある」ということを考慮に入れてみると、第4クラスタに所属する親のほうが子どもの規範意識形成にとってはいい親ではないかと考えられる。いかにいえば、保護者自身が規範を重視することよりも、自分に自信を持って積極的に子どもと関わっていくことのほうが大切ではないかと、という結論にいたった。特に第5クラスタでは中学生の父親が若干多いことから、父親が自信を回復して子どもに姿を見せ、積極的に子どもと関わることが重要ではないかと考えられる。

#### 6. おわりに

最後に、今後の課題を挙げると、研究上の課題としては、第1に規範意識を問うための

第4表 子どもとの関係に対する7クラスごとの回答の割合(中学生の保護者) (%)

Q2(1) 人数 (%)	① 107 (18.0)	② 155 (26.0)	③ 47 (7.9)	④ 65 (10.9)	⑤ 63 (10.6)	⑥ 100 (16.8)	⑦ 59 (9.9)	合計 596 (100.0) 平均
1-①女だちのことを話す ② 話さない	81.5 18.5	△85.2 14.8	83.8 16.7	81.5 18.5	70.3 ◎29.7	79.2 20.8	82.8 17.2	81.1 18.9
2-①担任の先生のことを話す ② 話さない	62.8 47.2	51.0 49.0	50.0 50.0	△55.4 44.6	45.3 ◎54.7	△55.9 44.1	51.7 48.3	52.0 48.0
3-①将来の職業のことを話す ② 話さない	63.9 36.1	61.9 36.1	54.2 ◎45.8	61.5 38.5	50.0 ◎50.0	62.4 37.6	◎69.0 31.0	61.1 36.9
4-①部活動のことを話す ② 話さない	84.3 15.7	83.0 17.0	85.4 14.6	△87.7 12.3	74.6 ◎25.4	81.4 18.6	◎89.7 10.3	83.4 16.6
5-①地域のボランティア活動のことを話す ② 話さない	27.8 72.2	◎32.3 67.7	27.1 72.9	◎35.4 64.6	25.0 △75.0	19.6 ◎80.4	◎34.5 65.5	28.7 71.3
6-①社会の出来事話す ② 話さない	64.8 35.2	66.5 33.5	◎72.9 27.1	64.1 35.9	57.8 ◎42.2	67.6 32.4	62.1 △37.9	65.3 34.7
7-①生や死について話す ② 話さない	△42.6 57.4	△43.2 56.8	27.1 ◎72.9	33.8 △66.2	34.4 △65.6	△42.2 57.8	31.0 ◎69.0	38.5 61.5
8-①異性のことを話す ② 話さない	△34.3 65.7	△35.3 64.7	27.1 △72.9	△34.4 65.6	17.2 ◎82.8	29.4 70.6	29.3 70.7	30.8 69.2
9-①父親や母親のことを話す ② 話さない	63.9 36.1	61.4 38.6	61.7 38.3	◎69.2 30.8	50.8 ◎49.2	62.4 37.6	◎70.7 29.3	62.7 37.3
10-①父親や母親の仕事のことを話す ② 話さない	58.3 △41.7	△66.2 33.8	60.4 39.6	◎67.7 32.3	64.1 35.9	55.9 ◎44.1	△66.7 33.3	62.5 37.5
11-①自分の性格や身体の特徴を相談される ② 相談されない	25.2 74.8	24.0 76.0	19.1 ◎80.9	◎35.9 64.1	21.9 △78.1	26.5 73.5	20.7 △79.3	25.0 75.0
12-①勉強を教える ② 教えない	32.4 67.6	33.8 66.2	27.1 ◎72.9	32.3 67.7	31.3 68.8	◎39.2 60.8	29.3 △70.7	33.1 66.9
13-①手伝いをしてくれる ② してくれない	◎72.2 27.8	63.6 △36.4	64.6 35.4	◎71.9 28.1	54.7 ◎45.3	△69.6 30.4	67.2 32.8	66.6 33.4
14-①一緒にテレビを見る ② 見ない	93.5 6.5	89.6 10.4	89.6 10.4	93.8 6.2	89.1 △10.9	94.1 5.9	◎98.3 1.7	92.3 7.7
15-①一緒に買い物に出かける ② 出かけない	77.8 △22.2	81.9 18.1	81.3 18.8	◎87.7 12.3	70.3 ◎29.7	◎89.2 10.8	77.6 △22.4	81.3 18.7
16-①休日と一緒に遊ぶ ② 遊ばない	△44.9 55.1	△45.8 54.2	31.3 ◎68.8	41.5 58.5	42.2 57.8	39.6 60.4	37.9 △62.1	41.8 58.2
17-①気をつかう ② つかわない	34.6 65.4	32.5 △67.5	◎48.9 51.1	32.3 △67.7	31.3 ◎68.8	◎44.1 55.9	34.5 65.5	36.2 63.8
18-①本気でけんかをする ② けんかをしない	◎51.9 48.1	48.7 51.3	△50.0 50.0	46.2 53.8	47.6 52.4	39.6 ◎60.4	39.7 ◎60.3	46.6 53.4
19-①褒める ② 褒めない	81.5 18.5	80.0 20.0	79.2 20.8	△86.2 13.8	82.8 17.2	80.4 19.6	82.8 17.2	81.5 18.5
20-①叱る ② 叱らない	△88.9 11.1	86.5 13.5	81.3 △18.8	81.5 △18.5	85.9 14.1	87.3 12.7	81.0 △19.0	85.6 14.5
21-①話に感心する ② 感心しない	◎80.6 19.4	69.0 ◎31.0	64.6 ◎35.4	△78.5 21.5	76.6 23.4	73.5 26.5	△77.2 22.8	74.1 25.9

◎: 平均値よりも10%以上高いもの  
○: 平均値よりも5%~10%高いもの  
△: 平均値よりも3%~5%高いもの

第5表 子どもとの関係に対する7クラスごとの回答の割合(幼稚園・保育所の保護者) (%)

Q2(2) 人数 (%)	① 136 (19.8)	② 150 (21.9)	③ 44 (6.4)	④ 50 (7.3)	⑤ 119 (17.3)	⑥ 103 (15.0)	⑦ 84 (12.2)	合計 686 (100.0) 平均
1-①何か話をする ② 話をしない	98.7 1.3	95.8 4.2	98.1 1.9	96.7 3.3	97.1 2.9	96.5 3.5	96.7 3.3	97.0 3.0
2-①一緒に遊ぶ ② 遊ばない	90.1 9.9	90.4 9.6	84.6 ◎15.4	88.3 11.7	△93.4 6.6	86.7 13.3	91.2 8.8	89.9 10.1
3-①一緒に外出する ② 外出しない	92.7 7.3	94.0 6.0	92.3 7.7	96.7 3.3	95.6 4.4	93.8 6.2	93.3 6.7	94.0 6.0
4-①困った事や悩みの相談をする ② 相談をしない	64.0 36.0	65.5 34.5	66.7 33.3	63.3 36.7	65.4 34.6	57.1 ◎42.9	66.3 33.7	63.9 36.1
5-①身の回りの世話を ② 世話をしない	82.7 17.3	◎88.6 11.4	80.8 19.2	78.3 △21.7	82.2 17.8	81.4 18.6	81.3 18.7	83.1 16.9
6-①家のことを手伝ってもらう ② 手伝ってもらわない	76.2 △23.8	80.6 19.4	△82.7 17.3	81.7 18.3	79.9 20.1	77.9 22.1	81.1 18.9	79.5 20.5
7-①様子を見守る ② 見守らない	94.7 5.3	94.0 6.0	94.2 5.8	100.0 0.0	95.6 4.4	94.6 5.4	95.6 4.4	95.2 4.8
8-①注意をしたり叱ったりする ② しない	95.4 4.6	95.2 4.8	94.2 5.8	93.3 6.7	96.3 3.7	93.8 6.2	92.2 7.8	94.7 5.3

◎: 平均値よりも10%以上高いもの  
○: 平均値よりも5%~10%高いもの  
△: 平均値よりも3%~5%高いもの

第6表 子どもへの理解に対する7クラスごとの回答の割合

Q2(3)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	平均
保護者全体								
①子どものことを理解している	59.9	62.1	64.4	△65.4	63.3	58.3	60.9	61.6
② していない	40.1	37.9	35.6	34.6	36.7	△41.7	39.1	38.4
中学生の保護者								
①子どものことを理解している	54.2	55.1	50.0	△56.1	49.2	50.0	47.3	52.4
② していない	45.8	44.9	50.0	43.9	△50.8	50.0	◎52.7	47.6
幼稚園・保育所の保護者								
①子どものことを理解している	64.0	68.9	◎79.1	◎78.0	70.6	65.7	69.9	69.0
② していない	◎36.0	31.1	20.9	24.0	29.4	△34.3	30.1	31.0

◎: 平均値よりも10%以上高いもの  
○: 平均値よりも5%~10%高いもの  
△: 平均値よりも3%~5%高いもの

設問での日常場面設定の妥当性の検討、第2に分析方法の妥当性の検討、第3に子どもと保護者をマッチングさせた調査の実施と結果分析が挙げられる。

また、行政施策上の課題を考えてみると、家庭教育の支援のあり方として、保護者への一方的な教育関係の知識伝達でなく、保護者と子どもの関係強化を支援するような方策を模索する必要があると考えられる。

#### 注記・引用文献

- 1) 調査は、静岡県下の小学5年生、中学2年生、高校2年生1,946名と調査対象となった中学2年生の家庭および静岡県下の幼稚園・保育所に通う子どもの居る家庭の保護者1,398名合計3,344名を対象に、学校・幼稚園・保育所を通じた配付・回収により、無記名方式で行われた。回収数は3,179票で、回収率は95.1%であった。調査および調査結果の詳細は、静岡県青少年問題協議会・静岡県教育委員会『青少年・保護者の規範意識に関する調査結果報告書』（2001年3月）を参照のこと。
- 2) 詳しくは、馬居政幸「中高生の規範意識についての多変量解析による考察」（前掲『青少年・保護者の規範意識に関する調査結果報告書』pp148～164）を参照のこと。